

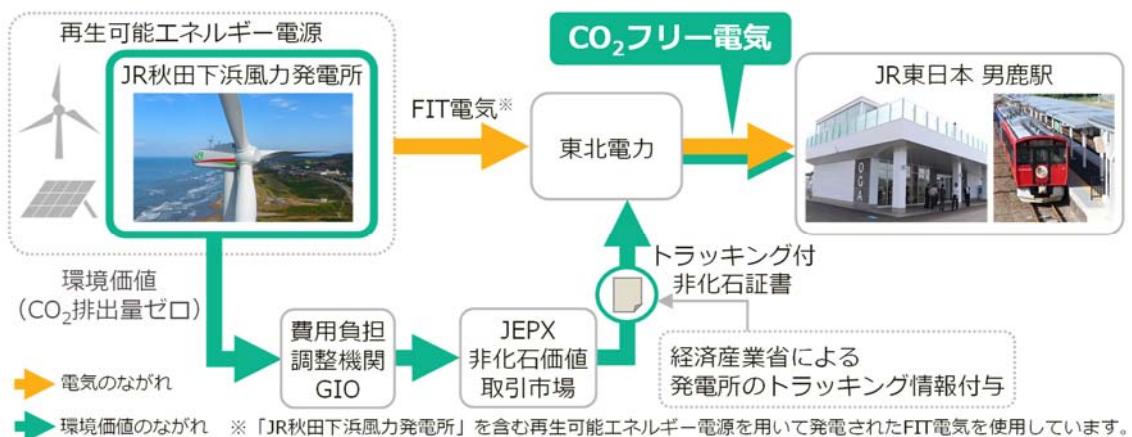
## JR 秋田下浜風力発電所を活用した「CO<sub>2</sub>フリー電気」使用開始について ～鉄道事業のCO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取組み～

- JR 東日本は、グループ経営ビジョン「変革 2027」において、ESG 経営の実践を掲げ、鉄道事業の2030年度環境目標である「CO<sub>2</sub>排出量40%削減（2013年度比）」の達成に向けて取り組んでいます。
- これを強力に推進し、鉄道の環境優位性をより一層高めるために、JR 東日本グループが開発をした再生可能エネルギーの活用を進めていきます。
- その先駆けとして、今般、男鹿駅で使用する電気を、JR 秋田下浜風力発電所を活用した「CO<sub>2</sub>フリー電気」に切り替えました。
- JR 東日本グループは、今後も再生可能エネルギーの開発に積極的に取り組むとともに、その活用を推進することにより、お客さまにCO<sub>2</sub>フリーの輸送サービスを提供し、「東北エリアCO<sub>2</sub>排出量ゼロ」を目指して取組みを進めてまいります。

### 1. JR 秋田下浜風力発電所を活用した「CO<sub>2</sub>フリー電気」の概要

JR 東日本は、2019年7月1日より、男鹿駅で使用する電気を、JR 秋田下浜風力発電所を活用した「CO<sub>2</sub>フリー電気」に切り替えました。この電気は、再生可能エネルギーで発電された電気を持つ環境価値（CO<sub>2</sub>が排出されないこと）を証書化した「非化石証書<sup>※1</sup>」を活用することで、CO<sub>2</sub>の排出量を実質的にゼロとしたものです。

具体的には、JR 秋田下浜風力発電所で発電されたFIT電気<sup>※2</sup>を買取りしている東北電力株式会社が、同発電所のトラッキング情報（環境価値の由来となった発電所を明らかにする情報）が付与された「非化石証書」を調達し、FIT電気と組み合わせて男鹿駅に供給します。この電気をJR 東日本が購入することで、男鹿駅で使用する電気は、JR 秋田下浜風力発電所由来のCO<sub>2</sub>排出量ゼロの電気として取り扱われます。



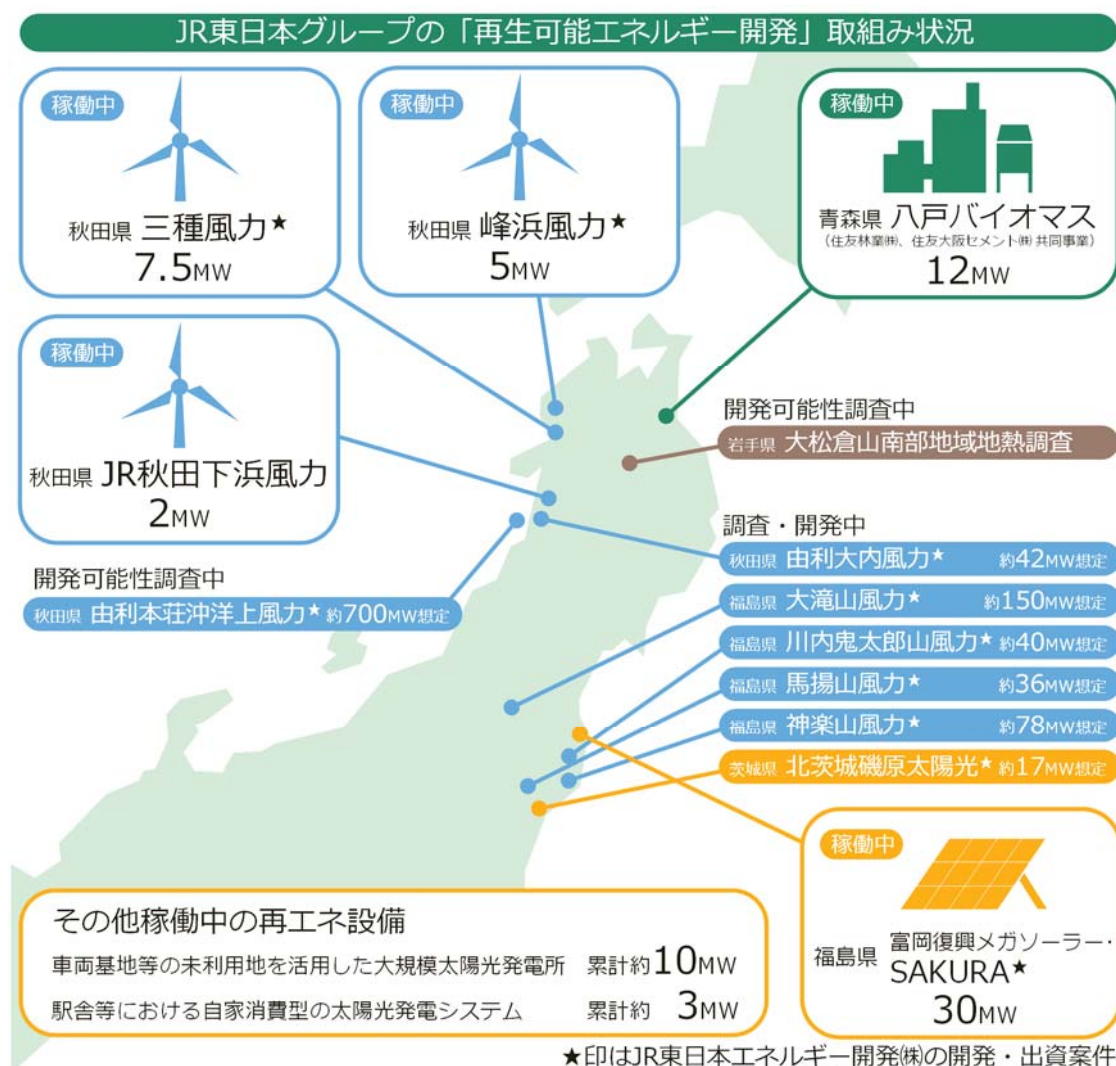
<電気供給スキームのイメージ>

## 2. 男鹿駅の概要

JR 東日本は、2018 年 7 月 1 日から、男鹿駅を「エコステ<sup>※3</sup>」モデル駅として指定しており、使用する電気の一部を 9 基の小形風力発電機によって賅っています。今般の取組みと併せて、男鹿駅で使用する電気は全て「CO<sub>2</sub>フリー電気」となります。同駅には交流蓄電池駆動電車「ACCUM」の充電設備を設けており、「CO<sub>2</sub>フリー電気」は「ACCUM」の運行にも使用されます。

## 3. 今後の取組み

JR 東日本グループは、引き続き、再生可能エネルギーの開発・活用を推進します。JR 東日本エネルギー開発株式会社が推進する風力発電事業を中核として、東北エリアを中心に各地で風力・太陽光・地熱といった再生可能エネルギーの開発に積極的に取り組めます。併せて、開発した再生可能エネルギー由来の「非化石証書」を活用した「CO<sub>2</sub>フリー電気」を電車に供給することで、お客さまに「環境にやさしく持続可能な CO<sub>2</sub> フリーの輸送サービスの提供」を進めてまいります。この取組みにより、東北エリアで走行する電車の CO<sub>2</sub> フリー化「東北エリア CO<sub>2</sub> 排出量ゼロ」を目指します。



(参考)

### ※1 非化石証書

再生可能エネルギーなどの CO<sub>2</sub> を排出しない電気が持つ環境価値を取り出し、証書化したものです。「非化石証書」を組み合わせた電気は、発電の過程で CO<sub>2</sub> が排出されない電気として取り扱うことができます。今般の取組みでは、電源種別や発電所所在地などのトラッキング情報を付与することで、環境価値の由来となる発電所が明らかになった「トラッキング付非化石証書」を使用しています。

### ※2 FIT 電気

固定価格買取制度 (FIT) の対象となる再生可能エネルギーで発電された電気のことです。「非化石証書」を活用しない場合の FIT 電気は、火力発電所などと同様に CO<sub>2</sub> を排出する電気として取り扱われます。

### ※3 エコステ

JR 東日本では、省エネルギー・再生可能エネルギーなど、さまざまな環境保全技術を駅に導入する取組み「エコステ」の整備を進めています。「4 つの柱」に対応する環境保全技術 (エコメニュー) を盛り込むことを基本方針とし、2020 年までに 12 駅整備することを目標としています。

#### 【4 つの柱】

「省エネ」…… 一歩進んだ省エネルギー化の推進

「創エネ」…… 再生可能エネルギーの積極的な導入

「エコ実感」… お客さまが「エコ」を実感できる施設の整備

「環境調和」… 人と環境の調和による活気の創出